

フレンズ 第30号

特別養護老人ホーム
短期入所生活介護事業
通所介護事業（3カ所）
認知症対応型通所介護事業（2カ所）

発行日 平成24年 8月25日
居宅介護支援事業（1カ所）
地域包括支援センター（2カ所）
（世田谷区委託/介護予防支援事業）

特養ホームと地域包括ケア

～ 施設と地域住民がつくる地域の福祉力 ～

統括施設長 飯田能子

ハイライト

- 巻頭言
特養ホームと地域包括ケア
施設と住民がつくる
地域の祉力
- 特集
「フレンズと地域との
ふれあい」
30号記念特集として、フレン
ズと地域のつながりをズーム
アップ
- 知っとく便利帳
生活の中に必要な、ちょっと知
っておくと便利な情報を新連載

昨年6月、フレンズケアセンターの一室を使って、私は「フレンズ朝食会」をスタートさせた。地域の75歳以上の独居高齢者を対象に、毎月第3日曜日の午前8時～9時半に、簡単なブレックファストを用意しボランティア委員会の職員と外部委員（町会役員、地区社協会長、民生委員）が交代でサービスに当たっている。スカイツリーと東京タワーを視野に納めるフレンズ世田谷センター4階からの眺望とゆったりとしたインテリアが好評である。

活を継続する」ためには、保険者である自治体の取組みが鍵となる。しかしながら、日常生活圏域を一つの単位とする「地域の福祉力」がなければ、それは画に描いた餅にすぎない。

「地域の福祉力」とは何か。特養ホームは「地域の福祉力」を高める社会資源であるが、一歩踏み込んで、「施設も地域住民も等しく地域づくりに責任を負っている」という意識を共有できる地域かどうか、が重要なポイントである。

「フレンズ世田谷センター」は、特養ホームのほかに通所介護事業所、地域密着型通所介護事業所、地域包括支援センター、そして1階の主要部分に保育所と園庭がある4階建ての複合施設の総称であるが、介護サービスを提供する事業所の単なる集合体ではなく、前述したような地域づくりの拠点として機能するならば、私はこれを「施設の包括機能」と呼びたいと思う。

1970年代に「施設の社会化」ということが言われ、施設が地域から切り離された状況からの「脱施設化」は時代の流れであったが、高齢化の進展とともに特別養護老人ホーム（以下、特養ホーム）の建設が進み、90年代には施設の構造にも地域を意識した交流ペースが作られるようになった。

介護保険導入後の国の施策は、従来型特養から個室重視の新型特養へと転換し、住宅機能が強調されている。事業主体である社会福祉法人の設立契機が異なるので、特養ホームの機能を一括りにすることはできないが、地域の中にどのようなかたちで存在しているかが問われる時代が来ている。

周辺地域は幸い、昭和30年代に立ち上がった生活学校や消費生活協同組合、日赤奉仕団などが住民活動の下地を作り、すでに役割を終えている活動からは新しい小地域活動が芽吹いている。声を上げれば、答えてくれる。1200戸の都営団地を擁するこの地域には、都市特有の深刻な問題も存在しており、施設と地域住民が共に関与できる活動は無限に広がっている。「施設の包括機能」を発揮することから、「地域包括ケア」の第一歩が始まっている。

75歳以上の高齢者が倍増する2025年を目標にした国の施策として「地域包括アシシステム」が公にされ、「介護と医療の連携」や「ケアが組み合わせられた集合住宅」などが打ち出されている。「住み慣れた地域で在宅生

目次:

巻頭言	
特集	
フレンズと 地域とのふれあい ボランティア委員会 見守りボランティア デイ・ホーム上馬と地域	2
フレンズホーム 新人職員紹介 新人職員のコメント 先輩職員よりエール ～新しい風にとって～	3
連載	
連載 知っとく便利帳①	4
フレンズ祭り 開催のお知らせ	4

フレンズホームの 見守りボランティア

平成20年2月、地域の人が気軽に参加できるボランティアとして「見守りボランティア活動」を施設長が提案しました。地区社協の推進員の育成につながることを願って、活動は下馬地区社協の事業計画になっています。

この「見守りボランティア活動」は、『フレンズホームの利用者と一緒に歌をうたいながら過ごす』という内容です。ボランティアは原則70歳未満とし、毎週水曜日16時～17時の1時間の活動ですが、4週をサイクルにして、下馬1～6丁目を4つの班に分け、推進員の組織化につなげています。この時間を心待ちにされる利用者さんの姿と終わった後の満足そうな笑顔に接して、私たち職員も感謝の日々です。

この見守りボランティアの皆様は、それぞれに健康のために体を動かす健康教室「下馬エクササイズ」、麻雀・おしゃべりお茶などを楽しむサロン「下馬CLUB」などに参加し、地域で活躍されています。(フレンズホーム生活相談員 高橋)

<見守りボランティアの皆さんの感想>

- ・歌っている時に子供時代や働き盛りのころを思い出している姿に接して、いつも感激しています。

- ・自分たちを必要としてくれる人が地域にいると思うと幸せな気分になります。
- ・一人ではできないことも地域に仲間がいると思うことにより、絆が深まった。
- ・帰る時には利用者の皆さんから「楽しかった、また来てね」などと声をかけてもらうと、とてもうれしくて、私たちも元気になります。



<フレンズホーム 3階 リビングにて>

ボランティア委員会

ボランティア委員会はボランティアの組織化を目的として、平成10年に高齢者福祉部門の職員で構成する『地域福祉委員会』として発足しました。法人内の4カ所の事業所(特養・デイサービス)では、年間を通じてたくさんの方々に、ボランティア活動に携わっていただいていたのですが、平成11年7月13日に、フレンズケアセンターを会場として、全事業所のボランティアを対象とした「ボランティア交流会」が開催された。

下馬・上馬・三軒茶屋の地域にまたがる65名のボランティアと委員会のメンバーによる、活動内容の紹介や意見交換会が行われました。これが契機となって、地域のボランティアと当委員会との連携がスタートしました。

毎年開催されるフレンズ祭りは、いわば連携の代名詞とも言えるでしょう。今年で4回目(前身のフレンズバザー&下馬生活学校リサイクルバザーから通算14回目)の開催となりますが、地域のボランティアにも外部委員として、準備段階から参画して頂いています。実行委員会で実施内容を吟味し、子供から高齢者までが楽しめるお祭りとして定着しつつあります。

ここ数年、フレンズ祭りには70名近くのボランティアが、参加をしてくださり、祭りをより一層盛り立ててくれています

平成23年度には、独居高齢者のための『フレンズ朝食会』がスタートしました。フレンズにとって、地域力は欠かせません。当委員会の活動を通じて、地域社会の問題解決につなげることで、社会福祉法人としての使命を発揮できたらと願っています。

今年のフレンズ祭りは10月28日(日)。下馬団地の1期工事が完了して、懐かしい顔ぶれが戻ってきました。皆さんの笑顔と出会うことを、今から楽しみにしています。

(企画管理部 部長 早坂)



デイホーム上馬と地域の絆

当事業所は開設から17年が経過し、今年1月9日から2月18日まで改装工事を行いました。工事は床の全面張り替えと空調設備の交換を行う大掛かりなもので、工事期間中は一時的に場所を移しての運営を行いました。

工事期間中、1人で事務所にいますと、ガラとした玄関を入ってくる地域の方が「工事、いよいよ始まったね」「デイホームさんが居ないとなんだか寂しいね」地域の方の声を聞いていると、事業所の役割がこの地域にとってどれだけ大切であったか、改めて考えさせられました。

「この地域に高齢者の施設を」というこの地域に暮らしている方々の要望によって、平成6年に集会場を併設した『世田谷区立高齢者在宅サービスセンター デイ・ホーム上馬』が開設されました。当時は、まだデイサービスという言葉さえも一般的には知られていなかった時代です。開設に向けて関わった地域の方々にとっては、万感の思いだったと伺っています。

現在でも、お花を届けて下さる方、「手伝えることがあれば何でも」と声お掛けて下さる方など、この地域に暮らしている方々に支えられていることを毎日のように実感できます。

今年も、地域の方に頂いた七夕の笹に、願い事をたくさん書いた短冊が風に揺れています。

これからも『地域の方々と共に歩んで行くデイ・ホーム上馬で あり続けたい』そう願って…。(デイホーム上馬 所長 石崎)



<デイ・ホーム上馬 正面玄関にて>

希望の星！！

新入職員の紹介



後列左より 山田 信岡 鈴木
前列左より 田中 施設長 近藤

2012. 4. 2 辞令交付式にて

★ 新入職員の意気込み！！ ★

- ・まだ不慣れな部分ではありますが、先輩職員に助けをいただきながら、利用者が穏やかに生活できるように頑張ります。
(2F勤務: 山田孝之)
- ・学ぶべきことは沢山ありますが、今はそれが楽しいです。利用者の笑顔を引き出せる職員になりたいです。
(3F勤務: 信岡裕之)
- ・少しずつできることも増え、毎日が充実しています。利用者の立場に立った支援ができるように、努力していきたいです。
(3F勤務: 近藤彩夏)
- ・専門学校を卒業し入社しましたが、現場は厳しいことばかりで、挫けそうなことが多々ありますが、利用者のことを第一に考えられるような職員になりたいです。
(2F勤務: 鈴木宗文)
- ・利用者の食の場面が安全で、笑顔あふれる時間になるよう食を通じて、私自身精進してまいります。
(管理栄養士: 田中友香里)

新しい風によって ～先輩職員よりエール～

今年の新入職員たちを見て「教え子が成長していく姿を見るのは、楽しくうれしいもの」と、学生時代の恩師が言った言葉を思い出しました。私はフレンズホームに入社して3年目、自分もまだ成長過程である中で、2年目より新入職員の指導を任命されました。「チューター制度/OJT」と呼ばれていますが、これは若手・中堅職員が新入職員に対し業務を指導していく事を言います。実際にチューターを経験して感じたことは、私たちの仕事は『チームケア』であること。この先、悩んだり、つまずいたりすることもあるかと思いますが、そんな時は、ぜひ周りの職員を頼ってほしいと思います。

これからも、楽しく、笑顔で、利用者の自立に向けた質の高い支援ができるように、お互い切磋琢磨していきましょう。 (K)

〒154-0002
世田谷区下馬2-21-11
電話 03 (3422) 7211
Fax 03 (3422) 7227
Email info@n-friends.or.jp



であい・ふれあい
地域のささえあい

ホームページもご覧下さい。
<http://www.n-friends.or.jp/>

- 世田谷区下馬2-21-11 Tel 3422-7211(代)
フレンズホーム / フレンズケアセンター
下馬あんしんすこやかセンター
- 世田谷区上馬4-36-9 Tel 5430-8050
デイ・ホーム上馬 上馬あんしんすこやかセンター
- 世田谷区野沢3-25-10 Tel 5486-7400
デイ・ホーム中丸・認知症デイ「ひだまり」
フレンズ介護保険サービス

編集後記

「地域との歩み」と題して原稿を書いていると、事業所の窓から、何十本という向日葵が夏の強い日差しを浴びながら元気に育っているのが見えました。この向日葵は、今年の夏に近隣の方が「デイホームの利用者に夏の花を」と分けてくださった2本の苗から採れた種を、今年、植えたものです。

台風の強風にも耐えてグングン育つ向日葵を見てみると地域のボランティア力と重なる力強さを感じます。(I)

=連載= リレーコラム 知っとく/便利帳 ① 成年後見人

A子さん「親が寝たきりなので、代わりにお金を引き出しに行ったら、断られたの。どうして？」

B男さん「親子でも、成年後見人になってないと、できないんだよ。」

Check⇒障害や認知症で、契約などの法律行為を行えなくなった場合成年後見人が代行します。トラブルや犯罪から本人の財産や権利を守るために、この制度ができました。

A子さん「でも、後見人って費用がかかるんじゃない？」

B男さん「弁護士や司法書士、社会福祉士がなれるのかな？」

Check⇒後見人の報酬は家庭裁判所が本人の収入や資産を判断して決めます。世田谷区では、誰もがこの制度を利用しやすくなるように、区民後見人の養成をしています。

A子さん「後見人は子どもでもなれるの？」

B子さん「親族間でもめそうだね。」

Check⇒本人が元気なうちに後見人を自分で決めることができます。その場合は公正証書の作成が必要です(任意後見人)。判断能力がなくなった場合は、親族か区長が申し立てをして、裁判所が後見人を決めます。

***区内の相談機関:世田谷区成年後見支援センター**

住所:成城6-3-10

TEL:03-5429-2212

お知らせ

第4回フレンズ祭り ～フレンズリサイクルバザー(14回)～

日時:平成24年10月28日(日)
10:00~14:00

場所:フレンズホーム
下馬2-21-11

★恒例のバザーをはじめ、演芸大会傘修理や足裏マッサージ、模擬店などの催しを企画しています。特に今年は、スタンプラリーを行いながら、フレンズを体感していただくコーナーを充実させる予定です。皆様のお越しをお待ちしております。

◆献品をお願いいたします◆

雑貨、食器、タオル・シーツ類、食品(新品未開封のもの)、クリーニングした衣類(子供服も可)できる限りの美品をお願いいたします。